健康講座

子どもの健康づくり ～視力について～

健　康

問 健康推進課 健康推進係　☎６２－２９１０（直通）

○ものが見える仕組み

人間は目だけでものを見ているのではありません。ものを見るときは目と脳が連絡しあって見える仕組みになっています。目から入った情報は視神経から脳に伝達することではじめて映像として見ることができます。

○視力の発達

生まれたばかりの赤ちゃんの目は、形はほぼ完成されていますが、視力は目の前がぼんやり見える程度です。視力が順調に発達するためには、適切な刺激を脳に送る必要があります。

○両眼視の発達

生後２～４ヶ月頃から発達し始めて、６歳でほぼ完成します。外界からの影響を受けやすい（感受性の高い）時期に最も発達すると言われ、１歳～１歳半までがピークで、この期間に両眼の向いている方向（眼位）が真っすぐでないと良好な立体映像は発達しません。両眼視の発達が不十分であれば、斜視※になります。

※**斜視**…両目の視線が真っすぐではなく、ずれている状態。
また、程度の強い遠視や強い乱視があると、適切な刺激を脳に送れなくなります。その為、視力の発達が遅れて弱視になります。

○健診で屈曲検査を実施

斜視・弱視は成長してからの治療は難しく、早期発見・早期治療が大事です。特に視覚の感受性の高い時期（就学前）に治療を開始することが重要です。しかし、就学時健診や学校健診ではじめて視力不良を発見されるケースも少なくありません。その為、視力検査に加えて遠方を見ている時に焦点が眼球のどこに結ばれているかを調べることのできる屈折検査が注目されています。

高森町ではこの屈折検査のできる特殊な機械を導入し、１歳半健診・３歳児健診で実施し、弱視や斜視の早期発見につなげています。画面に映る赤や青の光を10秒見るだけで簡単に測定でき、３歳未満でも、泣かずに検査が可能です。見えていない事をなかなか伝えられない子どもや家庭では気が付かない異常を見つけやすくしています。

スマホ・ゲームの活用にご注意を!!

スマホなどの平面画面を見ていると立体視力が育ちにくいため、スマホは２歳までは見せない方が良いと言われています。公園など外での活動で立体視力を育てるのです。また、光を発するものを長時間見続けることは目に相当な負担がかかります。スマホや携帯ゲームは画面が小さいため、焦点を合わせようとすると目に負担がかかり、遠くにピントが合わせづらくなります。そのため、子どもが使用する際は30cm以上離して、15分程度にし、長時間使用には気を付けましょう。

クリスマスツリーコンテスト

結　果

参加者名	賞
色見保育園	特賞
湧水館	１等
スペック	２等
青山製作所	２等
ＪＡ阿蘇高森中央支所	３等
ひめゆり	３等
トヨタレンタリース熊本	３等
Ｈｉｋａｒｕ☆ＴＶ	アイデア賞
梅香苑	アイデア賞
ゆたか学園	アイデア賞

消費者行政に関する首長表明

近年、経済社会の複雑な変化に伴い、消費者を取り巻く環境が複雑・多様化しています。高齢者を狙った「還付金詐欺」や「オレオレ詐欺」については、メディア等で取り上げられ全国的に情報が浸透してきた現在においても増加傾向にあります。

また、スマートフォン等の媒体の普及により、若年層を中心に「架空請求」や「ワンクリック詐欺」など消費者トラブルが多種多様化しており、本町においても相談件数が増えてきています。

このような情勢の中、高森町では消費者問題に迅速かつ適切に応じられるよう、消費生活相談窓口の開設やケーブルテレビ・広報紙・パンフレット等による啓発活動を実施し被害防止に取り組んでいます。

平成25年４月より南阿蘇村と広域協定を結び、両町村民が互いの相談室にて相談できる環境を整えるとともに、消費者行政活性化基金の活用により消費生活相談室を新たに設置し、相談業務の効率化並びに利便性の向上に努めております。

引き続きこの連携関係を継続させていく予定であり、消費者トラブルの防止に向けた啓発活動に力を入れていきます。

町では今後も消費者行政への取り組みを維持・強化してまいります。町民の皆様におかれましても、日頃から消費者情報に耳を傾けていただき、お困りの際は一人で悩まずご相談くださいますようお願い致します。

高森町長　草村　大成